

「おも掘り」

白椋 乃朱（しらかば のあ） 4歳

本願寺中央幼稚園（京都教区）

まずは手に掘ったおもいを持ち、ニコニコ顔で、おもいが掘れた嬉しさを表現しています。次には手を地中に伸ばし、探るような表情、さらには三人目四人目は「土が硬くて掘るのが大変だったよ」という表情です。最後のお友だちは土の中でおいを探り当てた瞬間の喜びを表しています。乃朱さんは、迷うことなく、地表を表す線を描き、その上の世界にいる自分たちと、土の中の世界をしっかりと描き分けています。5歳前後に見られる空間認識のステージで、実際の経験を、今思い出しながら楽しく表現していることが伝わってきます。

おもい掘りの絵は、多くの幼稚園で取り組まれているテーマです。ともすれば、大きなおもいを掲げ持つようなダイナミックな表現を求めてしまいがちですが、乃朱さんが実際に経験し感じたことを素直に表現したこの作品の価値をきちんと捉えている先生の存在がとても大きいと感じました。左から一人一人の表情を見ていくと、すべて違う事に気付きます。

●表紙のことば●



おお はし いさお
大橋 功

和歌山信愛大学